



命と命の支え合い

旧年のご厚誼に感謝申し上げます
皆様の平安を心より祈念致します

昨年は、極寒・大雪・地震・大雨・
猛暑・台風など全国各地で災害多発。
特別警報発令「直ちに命を守る行動を
とって下さい」と何度も聞き、その警
鐘の通りとなった。未曾有の被害を目
の当たりにした時、その恐怖に言葉を
失い、命の儚さを痛感した多事多難の
年であった。

当地域は土砂崩れや浸水、河川や道
路が損傷。復旧にはまだ時間が必要。
しかし、また天災が起き、我が身に降
りかかると思うと不安がつきまとう。
平穩無事に過ごしたい。

この不安や痛みは生きているから生
じ、命の鼓動を実感出来る。痛みを感
じるから私達は助け合うのだらう。先
人たちも、励まし合い、支え合い、懸
念に私達へ命を繋げてきたのだと思
う。私達は一人ではない。助け合うこ
とが出来。共に支え合い、明るい未
来へ命を繋げていきたい。

住職 清涼晃輝 合掌

平成三十一年 年回表

一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十三回忌	平成九年
二十五回忌	平成七年
二十七回忌	平成五年
三十三回忌	昭和六十二年
三十七回忌	昭和五十八年
四十三回忌	昭和五十二年
四十七回忌	昭和四十八年
五十回忌	昭和四十五年
百回忌	大正九年

今があるのは

ご先祖様のお陰

災難に遭ふ時節には
災難に遭ふがよく候

一八二八年、越後三条を襲った死者千六百余人の大地震。見舞をくれた知人へ良寛和尚の返信手紙。

地しんは信に大変に候。野僧草庵は何事なく親る中死人もなくめで度存候。うちつけに死なば死なずてながらへてかかるうきめを見るがわびしきしかし災難に遭ふ時節には災難に遭ふがよく候。死ぬ時節には死ぬがよく候。是はこれ災難をのがる妙法にて候。かしこ良寛

自分や家族は無事である。生きながらえたことで、人々が悲しみに打ちひしがれる姿をみてやるせない思いである。災難にあうときはあい、死ぬときは死ぬ。これが災難から逃れる方法でしょう。

現実を受け入れ、精一杯に生きる。災難と思った時災難にあらう。

澤ちゃんの仏教・仏事Q & A



法事が遅れるのはダメ？

法事（〇年忌法要）は、故人の祥月命日（没月日）と逮夜（前夜）に営むのが正式です。実際に二日営む事はなく一日で営む事が通例です。

一周忌までは満で数え、三回忌（満二年）からは数え年で〇年目に入る時に営みます。また同じ年に二霊以上する場合もあるでしょう。一霊ごとが理想ですが、親族の集まる都合などで、二霊以上の合同での法事も出来ます。

故人に報い安らかにと念じる供養をする意味で、命日に難しい場合は、早めに営むことが理想です。しかし、やむを得ない事情もあると思います。遅れても大丈夫。法事を営まないより、勿論営む方がよいでしょう。何より故人を思う気持ちが大切です。

法事の日程は予約制のためご希望の日時や場所等をご連絡下さい。思い立ったが吉日。まずは住職へご相談下さい。

みんなちがって、みんないい生き方を 金子みすゞの心とともに

大漁 詩 金子みすゞ 作曲 ちひろ

朝焼小焼だ 大漁だ
大羽鰹の 大漁だ。
濱は祭りのやうだけど
海のなかでは 何萬の
鰹のとむらひ するだろう。

十一月十二日【曹洞宗岡山県宗務所檀信徒地方研修会・管内人権学習会】を久世エス・パstrandで講演へちひろ&トークコンサートへ開催。参加者は、岸章弘氏・高柳泰雄氏・片山勇氏・政安広規氏・住職。

ちひろ講師は「大漁では、人間でありながら人間中心ではなく、全てのものに平等に眼差しを向けるみすゞさん。大漁だ大漁だと人間が喜ぶその一方で、海の中では命の吊いをするだろう。私達の喜びの裏に悲しみがある事を伝えていきます。私達はだからこそこの尊い命。この地球に生まれた全ての命あるものは、他の命を頂かなければ生きてはいけません。その同じ尊い命を有り難く頂いているのだという、感謝の気持ちをみすゞさんは忘れないでと、この大漁で伝えてくれているように思います。」とお話しされました。

檀信徒を訪ねて



画家の江田雅子（津山市宮尾）さんが、切り絵

で少林寺（禅道場体験）の様子を作品にされ、少林寺へ寄進頂きました。この作品は、一流アーティストの登竜門ともいわれる世界最古の公募展パリ【ル・サロン展】2017年の入選作品です。



【勤行の始まり】江田雅子

住職 この作品への思いを教えてください。

江田 これを作りたいと最も観じたのは和尚さんの足下です。かかと足を上げている所ですね。切り絵で作り出す光りと影。遠近感をみると面白いと思います。難しかったのは、柱の木目です。

住職 制作はどれ位かかりましたか？

江田 半年かかりました。まずは、下描きでデザイン。次に、下絵を基に本紙へ描きます。そして、切り絵になる黒紙を切っていくきます。最後に、各色のパーツを切って入れます。私の作品は細かいですから時間がかかるのですよね。

住職 切り絵の他にも絵や芸術活動をされていますが、いつ頃からですか？

江田 子供の頃から絵は好きでした。ステンドグラス・アートフラワー・書道など色々やりました。本格的にデッサンや絵を習ったのは二十年前です。

少林寺（本堂）を描いた「金龍銀龍」の作者、山形弘先生の息子さんになる山形楽（憲治）先生に師事し、二十年程前からパステル画や切り絵を習いました。ル・サロン展は最初の二年落選。でも諦めずにやり、今年で六回目の入選になりました。作品を作るのは時間を忘れる程で、絵を描くのは楽しいです。

▼教わる側から教える側へ 江田さんは、毎月二回久米公民館でパステル画教室を開催されています。また小学校で切り絵や習字を指導されています。芸術の楽しさを地域のお年寄りから子供たちへ今も伝え続けておられます。

寄進

●切り絵 【勤行の始まり】
江田雅子 殿（津山市宮尾）

●冊子 【大井西だより（総集編）】
爲貞寛 殿（津山市坪井上）

●書籍 【つやまの民話】
田村洋子 殿（津山市領家）

●金一封（護持会寄進）
故 石井操子 供養
石井義彦 殿
（津山市坪井町）

婦人会活動

○清掃活動

八月十八日 中北上地区
十二月十六日 坪井下地区

○盂蘭盆大施食会 接客係

八月十八日（坪井上地区）
政安由紀子さん
政安千恵子さん
原田郁子さん

皆様ありがとうございました

盂蘭盆大施食会

八月十八日、盂蘭盆大施食会を約七十名の参拝者と共にご供養致しました。



林昌寺（岐阜県恵那市）ご住職〈宮地直樹〉師による紙芝居法話を頂きましたので一部ご紹介致します。

① オンコロコロ

お婆ちゃんは、私が怪我をしたり、お腹が痛くなった時、そこに手を当ててくれて、こんな呪文を唱えてくれた。

「オンコロコロ…オンコロコロ…」

すると、痛みがすつとなくなつて楽になつた。

「お婆ちゃんは魔法使いなの？」

「うん。そうだよ。でもこの魔法しか使えないよ。大きくなつて、お前も守るものが出たらお前も出来るようになるよ。これだけは覚えておきなさい。お医者さんは治す人。お婆ちゃんは戻す人。」

□病葉の仏様である薬師如来のご真言

「オンコロコロセンダリマトウギソワカ」

② タイトルのない紙芝居

こんな子供なんていらなと思った事もあった。でも、それはお父さんお母さんもあなたの事が好きだから。今こうしてあなたも父親となつて、もっと沢山気付いているでしょう。親への感謝の気持ちをもつてくれた事は大変嬉しく思っている。お父さんもお母さんもあなたにお返ししてもらいたくてやってきた訳ではありません。でも、もし息子として私達に何かをしてくれるのであればお父さんやお母さんよりもずっとずっと長生きをして下さい。それが息子としての最後の役割です。それは親としての役割を全うさせてもらう事です。私達にもしもの事があつたとしても、お父さんお母さんもあの世から、あなたを、そしてあなたの大切な家族を見守りさせて下さい。ただそれだけが二人からの望みです。

③ 金魚すくい

書籍が出版され「金魚すくい」が掲載されていきますので是非ご覧下さい。

「夜の紙芝居」

著者……宮地直樹
発行所…講談社



禅道場体験

八月二十二日、第七回禅道場体験を入門者四十二名、指導者スタッフ三十名、総勢七十二名で読経・坐禅・写経写仏・法話・食事・作務（清掃）など一日修行致しました。今年（清掃）など一日修行致しました。今年は（大道芸人チャリー）さんにお越し頂き、マジックとバルーンショーを楽しみました。



お月見坐禅会

九月二十四日(旧暦八月十五日)【中秋の名月】に二十七名(大人十四名・子供十三名)が参加。

台風の影響で少し月光を感じた程度で、お月様は見られませんでした。しかし、お月様は雲で隠れているだけ。各々の心にお月様を抱き、合掌し今宵に感謝致しました。

お団子作り、坐禅、民話(田村洋子さん)①飴買い幽霊②驚にさらわれた子供③いぼ地蔵、最後にお月様へ供物を捧げお参りして、お月見を楽しみました。

十月二十一日(旧暦九月十三日)【後の名月】に二十三名(大人十四名・子供九名)が参加。

雲一つない澄み切った十三夜の空に、綺麗なお月様を拝むことが出来ました。

ぜんざいとお団子作り。少し冷たい空気に背筋を伸ばし月光浴坐禅。沢山の供物をお月様へ捧げ天の恵みに感謝致しました。お鍋を囲い座談会では、各自持ち寄った食事を頂きながらワイワイ賑やかな時間を共に過ごしました。



「ついたち」と「十五日」

志賀 勝

1日と15日は西暦ではあまり意識されないふつうの日でしょう。1日は月初めとして意識されるかもしれませんが。しかしこれが「ついたち」、「十五日」となると、がぜん意味の新しい地平が広がります。「ついたち（一日）」「十五日」はともに月暦（旧暦）で私が採用している漢数字ですが、「一日」は「月立（つきた）ち」が原形のことばで、月が再び新月となつて新しいひと月が始まる月暦の考え方の基本となる重要なものであることは、以前にも紹介したことがあります。この考え方が古い遺物ではないことに改めて気づくことが最近あり、月暦を再発見する機会がありました。

ついたちとは、月と太陽が再び出会い直す日ととらえれば面白いと思います。日の出、月の出の時刻を追いかけること、でこのことを確認してみましよう。

冬至の入る月は西暦では12月、月暦

では十一月、ときまつています。月暦で冬至は十一月十六日になり、十一月の新月は西暦12月7日。

この日の日の出時刻は6時37分、月の出は6時10分。ひじょうに近い時刻であることがわかります。十二月一日（西暦2019年1月6日）の日の出、月の出はどうでしょう？

日の出6時51分 月の出6時46分
「ついたち」における日の出、月の出の時刻は、冬のように日の出が遅い時期には月の出の時刻も遅く、反対に夏における日の出が早い時期は月の出も同じように早まります。

「ついたち」が月と太陽がつねに寄り添つて行動する日であることに、私は改めて感動を覚えたのでした。私たちの月は朔・二・新月で太陽の方向にあり、人間の目で見えることはできません。日の出を拝むとき、私たちは太陽のすぐそばにいて、見ることはできない月もまた拝みます。「ついたち」とは、月と太陽の双方が、「さあ、今日が最初の日。新しいひと月をはじめましょう。」と呼び呼びかけている日だからです。

人間にとってこのように重大な意味を持つ日でしたから、西暦の1日に変

わつてしまっているものの、今でも台所の火に感謝をささげる家が残っています。琉球でのこの風習の持続は強固なものです。

そして、「ついたち」とともに、「十五日」がやはり重大な意味を持つ日でした。それは、十五日が満月に近い日だからでした。満ちた月は明るく、美しく、ありがたいものでした。しかし、庶民にとり、天体現象である満月がいつかは特定がむずかしく、暦上の真ん中である十五日ということならば、その後、満月をふくむほぼ円い月であることから選ばれてきた月暦を代表するいち日なのでした。

明治の初めまで、「ついたち」と「十五日」は庶民の家々で女性が行なう定例の歳時の日でしたが、この日の重要さはこれだけではありません。奉公人は公休の日でしたし、仏教の世界でも大事な日でした。

とくに、「ついたち」は月と太陽が授ける恵みの日。その日がいつかをいつも知っておき、感謝を忘れないようにしましょうと私は思っています。月暦の新年は西暦2月5日。この日こそ月と太陽が寄り添うもつともとうとい日となります。

特派布教講習会

十月二日、住職の兼務寺（蓮光寺（奈義町））

で【特派布教講習会・人權学習・六教区護持会総会】が開催され、岸章弘氏・高柳泰雄氏・住職・寺族が参加致しました。松林寺（山形県最上町）ご住職（三部義道）師がお越し頂きお説教下さいましたので、一部ご紹介致します。

▼ある若い外国の方が初めて日本に来てホームステイをして大変驚いたことがある。それは家の中の仏壇を見たのですね。キリスト教の信者の方ですから仏壇とは思わなかったが、何か宗教的な感じがするものだと思って「ホームチャーチ・家の中の教会」だと思ったのです。日本民族は何と信仰深い民族なのだと思ひ感じし尊敬致しました。

ところが、十日経ち二十日経ちするうちにだんだん不思議に思うことがあった。ホームチャーチ・家の中に教会があるのに、その家のお父さんもお母さんも子供達も朝のお祈り、夕べのお祈りを捧げる姿がない。何故だろう。家の中に教会がありながら何故そこにお祈りを捧げないのだろうか。不思議に思うようになりお父さんに聞いた。「何故お父さんは、ホームチャーチ・

家の中の教会にお祈りを捧げないのですか？」お父さんの答えは「あゝ、それは婆ちゃんの係だから。」皆さんのご家庭は如何でしょうか？ やっぱり、婆ちゃんの係になっている所があるでしょう。

仏壇というのは、お厨子という箱の中に入っており、その中に屋根が付いて柱が建って段があつて、その真ん中に、ご本尊様・お位牌として先祖様がおまつりしていますね。その形はまさにお寺の本堂なのです。本堂の形をコンパクトにしたものが仏壇です。仏壇は我家のお寺なのです。ホームテンプルです。我が家にながらお寺参り・先祖参りが出来るのです。その仏壇の前に坐するという事が、日本民族の古来からの形であつたと思います。

皆さんが子供の頃には、子供達も仏壇の前にもつと坐っていたのではなかつたでしょうか。朝ご飯を頂く前に、仏様に手を合わせて来いと言われなかつたでしょうか。或いは珍しいお菓子を貰うと、まず仏様に御供えをして、頂く時には手を合わせてからな。と言われたり、賞状・感謝状・免許証等を頂くと、仏様に報告をして手を合わせていたことは、当たり前のようになどの家庭でも行われていたように思います。それがここ数十年の間に崩れてきているのは、誠にもったいない残念な事だだと思います。一人一人が手を合わせることによって、心の中に宗教

心が芽生えていくわけでありますから、婆ちゃん一人ではないのですよ。

▼前永平寺の宮崎奕保禅師が「仏壇の前に朝坐つて線香を立てますね。その線香を立てるときに真つ直ぐに立てなさい。右・左・前・後ろというように傾かないように気をつけて真つ直ぐに立てなさい。立てた線香に向かって、自分の背筋を合わせるように真つ直ぐにしていく。腰を伸して呼吸を整えて頭の血を下げていく。体が真つ直ぐになると心が真つ直ぐになる。心が真つ直ぐになると言うことが真つ直ぐになる。言うことが真つ直ぐになると行いが真つ直ぐになる。その日一日が真つ直ぐ生きることが出来る。これが坐禅だ。」というのです。難しいことではありませんね。毎朝体を真つ直ぐにすることから始めれば、皆さんのご家庭で出来ることだと思います。仏教は仏の教えと書きますが、仏に成る教えという意味もあります。仏のマネをすれば仏になれるのです。

▼昨日の夜、風呂に入って石鹸で顔も体も綺麗に洗い流しました。埃や泥や垢も全て洗い流して、横になって起きただけの顔を何故洗わなければならないのか。考えてみると不思議なこ

となのです。

それを道元禅師様は「身を清むるは、心を清むるなり。」顔を洗うのは汚れを洗うのではなく、身を清めているのだ。身を清めているのは、心を清めていることなのだ。

皆様、神社など参拝に行かれるときに手水舎で手を清められるでしょう。汚れているわけではない。ただ神様の前に立つとき身を清めないでは柏手も打てない。手を清め、口を清めてから参拝されますね。それと同じで、朝起きて顔を洗う事は身を清めることなのだ。そして、それは心を清める事になるのだ。

身心を清めるは、国土を清め、仏道を清むるなり。だから、朝起きて身と心を清めないで仏様に仏壇に手を合わせる事は出来ないという事です。身心を清めないでお天道様を拝むことは出来ないという事です。身心を清めないで人に会うことは出来ない。身心を清めないでご飯を頂く事は出来ない。というのが朝の洗面でございます。命を頂く食事頂くという事は全ての命を頂く事でありますから、そう、なおざりなことではありません。お米一粒私の口に入らないで田んぼに落ちれば約二百粒のお米に次の年にはなる。そのエネルギーを我々は頂いているわけで、そこに感謝するのは当然の事です。

行事報告

その時に身心を清めて命を頂きますというのが仏教徒の食事の頂き方であります。ですからご

飯を頂く前に身心を清めます。

▼玉島の圓通寺様へお参りさせて頂きました。良寛様の他に私には気になる存在がありました。仙桂和尚様という方です。良寛様の兄弟子になり一緒に修行した間柄です。ところが仙桂和尚様は、黙して語らず、身なりも気にせず、坐禅をせず、お経を読まず、法の一句も説かず、ただ畑を耕し野菜を作り、修行僧の食事を供養することに専念されていました。当時の良寛様は、仙桂和尚様のことをほとんど気にも留めていなかったと思われます。そして、師匠国仙和尚が亡くなり諸国行脚を経て越後に帰った良寛様へ仙桂和尚様が亡くなった知らせがきました。その時に読んだ漢詩が遺っています。

仙桂和尚は眞の道者

貌は古にして言は朴なるの客

三十年国仙の会にあつて

禅に参ぜず経を読まず

宗文の一句だに道わず

園蔬を作つて大衆に供養す

まさにわれこれを見るべくして見ず

これに遇うべくして遇わず

ああ今これに放わんとするも得べからず

仙桂和尚は眞の道者

一緒に修行しながらも、その道心を見ても見えなかった事を悔やむ良寛様の詩です。何も語らず、坐禅もせず、経も読まず、ただ黙々と食事を供養した和尚さんが、大事にされていた。良寛様がそれに気付いたからですが、我々も仙桂和尚様から学ぶことは大きいと思います。その時は誰からも認められず褒められず、目にもかけられない存在であっても、ただ黙々と自分の務めを果たす事によって、二百年経っても手を合わせたいという人が現れるのです。ノーベル賞や金メダルを貰う人ばかりが輝いているのではありません。全ての一人一人全ての命が、誰とも比べることのない「天上天我唯我独尊」の存在です。生活を正して日々をキチンと生きる。それこそが眞の道者です。仙桂和尚様は眞の道者なり。感激の岡山でした。

修正会 (しゅしょうえ)

元日～3日 (随時受付)

①11時 ②14時

厄払いなど新年のご祈禱します

婦人会清掃活動

3月17日(日) 中北下・南方中・領家

総供養会

3月21日(日) 春彼岸会 中日

10:00 総供養会 (先祖供養会)

10:45 講演 寮美千子先生

講師…寮美千子(りょうみちこ)

昭和30年東京生まれ。昭和61年、毎日童話新人賞を受賞。作家。童話から小説まで幅広く活躍。奈良少年刑務所の「社会性涵養プログラム」講師を努める。

御詠歌 講員募集

毎月2回

1回 2時間 (休憩有) 1,500円

講師：源福寺ご住職 小谷典尚 先生

行事予定 1月～6月

元日～1月3日

9:00 修正会 (しゅしょうえ)

1月12日(土)

9:00 覚禅会

2月9日(土)

9:00 覚禅会

3月9日(土)

9:00 覚禅会

3月17日(日)

9:00 婦人会清掃 (中北下)

3月21日(木)

10:00 総供養 (先祖供養会)

10:45 講演 寮美千子先生

4月13日(土)

9:00 覚禅会

5月11日(土)

9:00 覚禅会

6月8日(土)

9:00 覚禅会

覚禅会

毎月 第2土曜日 / 9:00～坐禅・行茶 / 10:00～写経

1月～6月の予定

1月12日 2月9日 3月9日 4月13日 5月11日 6月8日

- ・参加費無料。坐禅と写経の二部制です。一方の参加も可能です。
- ・足の不自由な方は、椅子に座り足を組まなくてもできます。
- ・写経は、椅子と机がございます。
- ・道具もあります。(使い慣れた道具があれば持参下さい)
- ・檀家、年齢性別は問いません。どなた様もお気軽にお越し下さい。
- ・団体の場合はご連絡下さい。個別の日程は要相談。
- ・個人、団体、企業など出張で坐禅会・写経会を致します。
- ・勝手ながら、急な日程変更もありますので事前にご確認頂ければ幸いです。



お知らせ&インフォメーション

あなたもお坊さんになりませんか？

ご興味のある方、少林寺住職までお問い合わせ下さい。

英語教室 受講生 募集中

対 象：小学4年生～6年生

講 師：山本明德先生

受講日：毎週金曜日 17時～18時（時間変更あり）
毎月3～4回（祝日・第5金曜日はお休み）

月 謝：2,500円（お寺に使用料500円含む）
体験・見学は無料。お気軽にお越しください。

「檀信徒を訪ねて」

「なむなむ のんのんさま」

出ませんか？

お気軽にお声かけ下さい
「頑張っている方、応援します！！」

本紙をご家族、皆様で ご覧下さい。

ご遠方にお住まいのご子息や
ご親戚にも発送致します。

【ラジオ法話放送】

曹洞宗中国管区教化センター提供

1週間分の放送が無料で聞けます radiko.jp

<曹洞宗 今日のこころ わたしのこころ>

RSK ラジオ 日曜日 6:10～6:15

ご意見、ご感想、

投稿 募集中

趣味、特技等の発表にお使い下さい

お問合せ：info@shorinzenji.com



お話し聞きます

悩んでいる方、落ち込んでいる方、寂しさを感じている方、つらい方、
私で宜しければ、お話し聞かせて頂けませんか。

また、人生相談、仏事相談もご遠慮なく。

いつでも、どうぞ。お気軽にご相談下さい。（住職）

☎0868-57-2303 ☎080-6351-9686

メール：info@shorinzenji.com

住職のつぶやき

●知人が「お寺は税務署来ないし税金ないのだからいいな」と言う。私が「じゃあ坊さんになったら？」と言うと黙った。寺に税務署は来ます。寺院（宗教法人）は非営利のため御布施等は非課税です。但し駐車場経営など営利目的の収入は課税対象。所得税や社会保険料はお支払いします。目先の損得に心を奪われると心の平穏は訪れないと気付かされる。税金も心掛け次第で浄財となり喜捨となる。

●昨春、祖母が臨終した時、溢れんばかりの感謝が込み上げてきた。祖母の手縫いの半襦袢と白衣を身に付け喪主を務めた。物を大切に裁縫が好きであった。これからの着物で心を込め勤めいくことが、私なりの供養である。

●何気ない相手の一言が心にグサツと刺さり落ち込む。疲弊した心には優しい言葉が潤いとなる。気力ある言葉は元氣が出る。言葉は人の心を映す鏡。善い言葉が好きだ。

たった一言が人の心を傷つける。
たった一言が人の心を温める。

訃報



せりょうたまき
故・清涼環

圓通環照禪尼

少林寺十八世義道大和尚の長女
少林寺十九世哲英大和尚の母
少林寺二十世晃輝大和尚の祖母

大正十四年、新見市・地藏寺二十三世
清涼義道大和尚長女として誕生。

昭和六年、清涼義道大和尚が少林寺十八世としての転住に伴い少林寺へ移る。その後は大井西村で育ち、小学校教諭として勤める。

昭和二十一年、新見市・利濟寺十世系谷寛展二男琢英大和尚と結婚。清涼琢英大和尚は奈義町・蓮光寺十一世となり、その室として勤めること七十余年。小学校教諭四十二年。子供四人・孫九人・曾孫三人に恵まれ平成三十年四月二十一日没。行年九十四才。

故人生前中、檀信徒、地域の方、職員関係の方など縁者の皆様には、一方ならぬご懇情を賜わり、厚く御礼申し上げます。

西日本豪雨

豪雨災害でお亡くなりになった方、その関係者へお悔やみ申し上げますと共に、被災された方へお見舞い申し上げます。また、行方不明の方の発見と一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

岡山地方気象台によると、七月五日午前二時の降り始めから七日午後三時までの総雨量は津山市四二・〇ミリ。一年間に降る雨のほぼ三割に上った。(山陽新聞掲載)

●少林寺の被害



少林寺は、人、建物への大きな被害はなし。被害は、寺山(中北上明谷)の土砂崩れ。川の水を塞ぎ止めたため、楽万町内会長と行政の早急な対応で応急処置済。歴住墓地裏の土砂崩れ。その他、小規模の土砂崩れ多数あり。

●源福寺の被害

少林寺御詠歌講の講師を勤める小谷典尚住職の源福寺様(倉敷市真備町川辺)が被災。本堂天井付近(約3.2m)まで浸水。庫裡(住居・墓地等)が水害に遭う。

行事やSNSで募金を呼びかけたところ沢山のご寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。寄付金は、全て源福寺様へお届けしています。現在、片付けがほぼ終了し、復旧へ向け準備中です。しかし、檀家8割が被災しているため、復旧は遠い道のりです。

皆様のご支援がまだまだ必要です。お寺が復旧すれば地域の力になると信じています。たとえ僅かでも無力ではなく、微力でもそれは力となります。きつと支えとなるはず。引き続き、支援金を募集しております。



曹洞宗 澤龍山 少林寺

〒709-4606 岡山県津山市中北上 1150

●電話 0868-57-2303 ●住職電話 080-6351-9686

●メール info@shorinzenji.com

●ホームページ http://www.shorinzenji.com

●曹洞宗澤龍山少林寺フェイスブック https://www.facebook.com/shorinzenji

●晃輝和尚のブログ「覚禅堂」 http://ameblo.jp/seiryō-koki/



フェイスブック



ホームページ



ブログ